

ニライみらい

2026年(令和8年) 8月号 461号

技術と理念で
未来につなぐ



今月号の目次

- 1・2面 21世紀に輝く【株沖縄環境科学研究所】
- 3面 新会員オリエンテーション・茶論
- 4面 宮古支部例会・ランチ会
- 5面 南部支部例会
- 6面 八重山支部例会
- 7面 那覇支部例会
- 8面 中部支部例会・コザ信金ワーク
- 9面 うりずん部会例会
- 10面 経営指針作成講座
- 11面 浦添てだこ支部「改善ラボ」
- 12面 第2回新人フォローアップ研修会
- 13面 だっからよ〜【MAON VEGAN FACTORY】
- 14面 わが社のポリシー【有沖縄ホテル】
- 15面 中東情勢に関する政策要望・提言

同友会ってどういう会?



魅力動画



入会申込フォーム



行事案内



Facebook

〒901-0152
沖縄県那覇市字小禄1831番地1 沖縄産業支援センター603号
☎098-859-6205(代) FAX.098-859-6208
<http://www.okinawa.doyu.jp>
E-mail:doyu@okinawa.doyu.jp

技術と理念で未来につなぐ

21世紀に
輝く No.253



高柳 圭吾 氏



(株)沖縄環境科学研究所は、水質分析などの環境計量証明事業や環境調査を行う環境コンサルタント会社です。県内でも長い歴史を持つ企業で、二〇二四年に創業五十周年を迎えました。今回は二〇二三年六月に代表取締役へ就任した高柳圭吾さんにお話を伺いました。

■沖縄へ戻り環境の世界へ

高柳さんは東京生まれで、小学校から沖縄で育ちました。子どもの頃はひょうきんな性格で、学校の出し物では腹踊りを披露するなどクラスの人気者だったそうです。大学卒業後は県外で就職しま

したが、東日本大震災をきっかけに沖縄へ戻ることを決意。二〇一二年、二十七歳で沖縄環境科学研究所へ入社しました。創業者の遠山英一さんは高柳さんの母方の叔父で、父親も経営に携わっていました。

■資格が広げた可能性

入社当初は会社の業績も厳しく、将来への迷いもあったそうです。そんな高柳さんにとって転機となったのが環境計量士の資格取得でした。

当時、会社には資格者が一人しかおらず、高柳さんが資格を取得したことで、会社として受けられる仕事の幅も広がりました。その後も技術士などの資格取得に挑戦しています。

「資格を取ってから、会社の売上や利益を考えるようになりました」高柳さんはそう振り返ります。

■創業者と同じ答えにたどり着く

高柳さんは二〇一七年から取締役として会社運営に携わり、三年前に社長へ就任しました。

「お金を借りる時に自分の名前になること。そして後ろを見ても誰もいないことに気付いた時は少し驚きました」

社長としての責任を実感する一方で、高柳さんが大切にしているのが経営理念です。

同友会の経営指針作成講座で自ら理念を作成した際、創業者の理念と見比べる機会がありました。すると言葉は

違っているけど、その内容は驚くほど似ていたそうです。

「すり合わせをしたわけではないのに、同じ考えだったことが嬉しかったですね」

今年、社員へ理念を発表した高柳さん。今後は社内へ浸透させるため、繰り返し伝えていきたいと考えています。

■頼られる社長を目指して

社員とのコミュニケーションでは、趣味や今欲しいものを聞くことを心掛けています。社員一人ひとりを知ることが、「待遇をもっと良くしなければ」という自分へのプレッシャーにもなっているといいます。

社員には自分で考え、自分で行動できる人になってほしい。そして自分たちで解決できない時に相談に来てほしいと考えています。

また、若手社員の資格取得や研修参加も積極的に後押ししており、人材育成にも力を入れています。

「親しみやすい社長というより、いざという時に頼りになる社長と思われるたいですね」

社長になって嬉しいことを伺うと、「社員が新車を買った時や、お子さんが大学に進学した時ですね」と答えてくれました。

■西普天間に描く未来

高柳さんの十年後の夢は、西普天間地区に環境配慮型の自社ビルを建設す

ることです。環境を扱う会社として、建物そのものも環境に配慮したZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）にしたいと考えています。

現在は分析用の水を運ぶ際に階段を使うこともあり、作業効率や安全面からも新社屋への思いは強いそうです。分析室や食堂、シャワー設備を備えた働きやすい職場を目指しています。

理想とする建物のイメージは、すでに自宅の机の前に貼ってあり、今後は社員の意見も取り入れながら、十年ビジョンとして形にしていきたいと話していました。

理念の浸透、人材育成、新社屋建設という夢。その一つひとつに、高柳さんの「もっと良くしたい」という思いが込められているように感じました。

(司法書士法人
なかいし事務所
司法書士 新城
千夏)



《会社概要》

(株)沖縄環境科学研究所
代表取締役社長 高柳 圭吾 氏
(中部支部)

所在地 / 宜野湾市字新城1-24-13
TEL / 098-893-8444
事業内容 / 建設コンサルタント
計量証明事業



6月新会員オリエンテーション in 南風原



下田美智代副代表理事

六月の新会員オリエンテーションが、南風原町中央公民館で開催されました。

今回参加された新会員は七名。宮城光秀代表理事より会員バッジの贈呈が行われ、晴れて同友会の仲間として迎えられました。

自己紹介では、事業内容や入会のきっかけなどを語っていたばかり、「いろいろな人と関わりたい」「とにかく経営をしつかり学びたい」といった、皆さんの意欲あふれる声が聞かれました。また、「沖縄をより良くしたい」「地域に貢献したい」という心強い思いも語られました。

魅力体験報告者は、入会二年目の島袋木工所・島袋正貴さん。同友会に入会したきっかけや、活動を通して感じた率直な思い、そして同友会をどのように活用しているのかについて、若手ならではの視点で報告してくださいました。

続いて、下田美智代副代表理事より、自身の経験を交えながら「同友会の理念と歴史」を分かりやすくお話しいただき、その後は企業変革支援プログラムのワークに参加者全員で取り組みました。

グループ討論のテーマは「経営の悩みをどのように解決しますか?」。初めての討論とは思えないほど積極的な意見交換が行われ、それぞれが自社の経営課題をしっかりと把握していることが印象的でした。

また、既会員からは同友会での学びや経験を通して課題をどのように解決してきたのかを聞くことができ、オリエンテーションらしい充実したグループ討論となりました。新会員の皆さん、ご入会おめでとうございます。



新会員のみなさま 左から

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| ① 亀井洋一郎氏 (同) WEBでええじゃないか 代表社員) | ④ サンチェス登川徹哉氏 (株) LinoPlus 代表取締役) |
| ② 佐藤 誠氏 (同) オネスティ 代表社員) | ⑤ 福本龍之介氏 (弁護士法人 THREEUP 代表) |
| ③ 徳村 剛氏 (株) フロンティアウェーブ 取締役) | ⑥ 上間 義一氏 (上間農産 代表) |

茶論

あるコラムによると、アメリカで高校生二〇〇〇人を対象に次のような実験を実施したとのこと。後輩に勉強法を教えたグループと、何も教えなかったグループに分け、学力テストの成績を比較した。すると前者の方が成績を伸ばす傾向にあったという▼これは周囲に尽くす行動が、自分の力になったということ。人のことを考えられる人は、自分のことばかり考える人より、良い人間関係を築き幸福度も高いという研究もある▼昨年、筆者の会社には四名の青年が入社した。保険というカタチの無い商品を提案するのは商品知識のみならず法律・医療・賠償義務等々の知識も学ばなければならぬ。悪戦苦闘している十月入社のA君に、四月入社のB君がアドバースしている姿があった▼入社当時は

“自分のことで精いっぱいなのに”という姿勢だったB君。入社九年目の先輩C君が寄り添って教えてくれ、同行訪問も重ねながら結果を示しゆくC先輩をみて“自分も”と思ったのだろう▼C君に「人の前に明かりを灯せば、わが前明らかなるべし」との仏教説話を話したことがある。自己中心のだった彼も徐々に変わってきた。「切磋琢磨」が形になりつつある。それには、経営者の私が更に成長しなければ「よい会社」は実現しないと思う。(仲地治)



6月 宮古支部例会

学びを实践した先に見えてきたリーダーのあり方



友利 博明氏

宮古支部は六月十二日、宮古島ICT交流センターで六月例会を開催し、二十二名が参加しました。今回のテーマは「学びの实践から得られた成果となりたい自分への挑戦」私の考えるリーダーのあり方」。宮古支部長で先嶋産業(株)代表取締役の友利博明氏が、自身の経営体験をもとに報告を行いました。

報告では、建設会社へ入社してからホテル事業の立ち上げ、そしてホテル会社の社長に就任するまでの歩みを振り返りながら、自身のリーダーとしての考え方がどのように変わってきたのかを語りました。



グループ討論

ホテル開業の際は、準備室に一人だけで配属され、何もかも自分一人で抱え込む毎日でした。「リーダーとは先頭に

立つて社員を引っ張る人」という考えで仕事に向き合っていました。無理を重ねた結果、過労で入院した経験もあったそうです。

そんな友利氏にとって大きな転機となったのが、同友会との出会いでした。二〇一八年のさきしま経営フォーラムで(株)御菓子御殿の澤舄カズ子氏の報告を聞き、「理念を軸にした経営」に強く心を動かされたことが、本気で経営を学ぼうと決意するきっかけになったと話します。その後、経営指針作成講座などで学びを重ね、先嶋産業の経営理念を策定。社員とSWOT分析や面談をするなど対話を重ねながら、理念を会社に根付かせる取り組みを続けてきました。

その中で少しずつ会社にも変化が現れ始めています。社員が仕事の「やり方」ではなく「目的」を考えるようになり、会社の未来について語る場面が増え、社長への提案や意見も以前より多くなりました。友利氏は、「社員が会社を自分ごととして考えてくれるようになったことが、一番うれしい変化です」と振り返りました。

最後に友利氏は、「経営理念は作ることがゴールではありません。社員と共有し、実践を積み重ねることで、少



宮古支部 新会員ランチ会

交流を深め、学び合う第一歩に

宮古支部は六月十六日、ホテルアトールエメラルド宮古島において、新会員を対象とした「会員親睦ランチ会」を開催し、十二名が参加しました。

当日は、新たに入会した会員がそれぞれ事業内容や入会のきっかけ、同友会で学びたいことや現在抱えている経営課題について自己紹介を行いました。



ランチ会参加者

しずつ会社は変わっていきます。そして、その変化はまず経営者自身が変わることから始まります」と参加者へ呼びかけました。

今回の例会は、同友会での学びを自

た。「地域に貢献できる企業を目指したい」「組織づくりや人材育成を学びたい」「異業種とのつながりを広げたい」など、それぞれの想いや期待が語られ、参加者同士が互いを知る貴重な機会となりました。

後半は、三浦宏幹専任による「ビジネスをもっと深掘り」をテーマとした話題提供が行われ、自社事業や実践事例が紹介された後、人材育成や就業規則の整備、組織づくりなど、日頃の経営課題について活発な意見交換が行われました。会員それぞれから自身の体験を交えた実践的なアドバイスも多く寄せられ、新会員にとっては同友会ならではの学びを実感する時間となりました。

宮古支部では、今後も会員同士が気軽に相談し合い、互いに学び合える場を大切にしながら、「学びで意識を変え、行動で成果に繋げ、成果を次の成長へ」という支部方針の実践につなげていきます。(先嶋産業(株) 友利博明)



6月 南部支部特別例会

平和のバトンを演劇でつなぐ



永田 健作 氏

中同協の方針には「中小企業は平和な社会でのみ繁栄を続けることができる」と掲げています。

す。南部支部では昨年行われた三十周年記念式典で、映画を通して平和について考える機会にしました。今年も慰霊の前日の六月二十二日に特別例会を開催して学びました。

報告者には(株)ナラティブ 代表の永田健作氏にお願いしました。当初は講話のみの予定でしたが、永田氏の好意と多くの人に知ってほしいとの思いから平和劇も上演していただくことになりました。今年の同友会大学院で永田氏の講和と平和劇を鑑賞した際に、支部でも報告をお願いしたいと強く思い、中東情勢や台湾有事で緊迫しているなかで、今一度平和についてどう向き合うのかを考える機会にしました。

永田氏は大学卒業後、俳優・演出家・脚本家など演劇一筋で歩んできました。白梅学徒隊として戦争を体験者した中山きくさんとの出会いが永田氏を大きく変えるきっかけとなります。きくさんが語れなくなる日を見据え、そ

の体験を劇にしてほしいという知人からの依頼を受けてのことでした。

「私はね、簡単には死ねないの、私が語るのをやめたら、あの日亡くなった友だちの生きた証も消えてしまう。私には使命があるの」きくさんの言葉に永田氏は衝撃を受け、自分の無知を恥じたといいます。

永田氏は沖縄戦をはじめ先の大戦に関わる歴史を学びます。演劇に活かすためでもありますが、昨今の社会情勢に強い危機感を持っていて、だからこそ演劇という同じ空間と時間を共有すること、自分の頭で考え自分の言葉でこの国のことを語れるようになってほしいと願っています。

平和劇は南風原町出身の大城勇一さんの実体験を元にしていますが、台本を勇一さんに見せた際に、「日本軍の描き方が甘い。もっと残酷だった」と、厳しいお叱りを受けます。しかし、永田氏はあえて「100%の再現を避け、あえて善悪をはっきりつけない中途半端さを残すことで、子どもたちを特定の意見に誘導するのを避けたかった」とします。日本軍が悪、米兵が悪という印象を与えず、戦争を二度と繰り返さないという強いメッセージが込められています。

もう一つ、今回の例会でキーワードとなったのが「使命感」です。永田氏の使命感はタイトルのとおり「平和のバトン」を演劇でつなぐことですが、我々中小企業家も何かしらの使命感を持って生かされていることを共有したく、グループ討論テーマを平和についてだけではなく「次の世代に語り継ぐあなたの使命は何ですか」で討論しました。

難しいテーマだったかもしれないですが、もし戦争が始まれば築いてきた会社はすぐに失われ、八十年前と同じことを繰り返してしまします。経営者として一人の人間として「使命感」をもつて行動することとは必要であり、とても学びの深い例会となりました。

会員以外の方々も呼びかけたところ津嘉山の区長さん、地元中学校校長先生や近くで遊んでいた小学生も演劇を鑑賞してくれて改めて感謝申し上げます。

永田氏は数年後には、海外でも平和劇

をすることを企画しており、沖縄だけではなく世界中に「平和のバトン」をつないでいきます。排除ではなく対話を訴える平和劇を平和学習として多くの人々が観劇すれば、二度と戦争してはいけないことが総意になると確信できた例会でした。

(南)たけ事務 竹 富久



集合写真



八重山支部・青森同友会上十三支部とのチャンプルー例会 思いが形になる未来を目指して



吉田 亮子 氏

六月十九日、八重山支部例会・チャンプルー例会が開催され、「思いが形になる未来を目指す」をテーマに、(株)思い工房代表取締役社長 吉田亮子氏（青森同友会上十三支部）による経営体験報告が行われ、二十八名が参加しました。

吉田氏は、介護・福祉の現場での豊富な経験を経て、「誰もが自分らしく働ける場所をつくりたい」という思いから(株)思い工房を設立。現在は就労継続支援B型事業所「Omo・iぱれつ」の運営をはじめ、カフェやキッチンカーでの販売など、地域とつながる事業を展開しています。

創業直後には、新型コロナウイルスの影響で利用予定者がゼロとなり、資金繰りに苦しみ厳しい状況を経験しました。しかし、「利用者が来てくれることは決して当たり前ではない」という気づきを原点に、一人ひとりに寄り添う支援を積み重ねた結果、利用者数は着実に増加し、経営も安定へとつながりました。

一方で、採用のミスマッチや社員と

の価値観の違いなど、組織づくりにおける課題にも直面。その経験から、同友会の「経営指針作成講座」で学び、「科学性・社会性・人間性」を柱とした理念を策定し、社員との対話を重ねながら組織づくりを進めていることが紹介されました。「理念を共有し、社員とともに未来を描くことが企業の成長につながる」という言葉は、参加者の心に深く響いていました。

グループ討論では、「思いを伝えるために経営者としてどう在りたいか」をテーマに意見交換を実施。「理念は言葉だけでなく行動で示すこと」「経営者自身が楽しむ姿勢が組織文化をつくる」「思いを繰り返し伝え続けることが社員との共感につながる」など、多くの学びが共有されました。

宮古支部と姉妹支部である上十三支部とのチャンプルー例会を通して、経営者の思いを理念として形にし、社

員との対話を積み重ねながら実践していくことの大切さを改めて学ぶ機会となりました。企業の成長は経営者一人の力ではなく、仲間とともに未来を創り上げていくことから始まることを実感する、有意義な例会となりました。（同）松島 奥平あかり



会場全体



集合写真



6月 那覇支部例会

会員のみなさん 那覇支部が変わりますよ！ 那覇支部の委員会ってなあに？



慶田盛 克磨氏



河野 信之氏



生天目 花蓮氏



新井 崇史氏

那覇支部は今年度より「経営委員会」「政策委員会」「例会委員会」「会員交流委員会」の四つの新たな委員会制度がスタートします。六月二十三日、沖縄ホテルにて、今年度さらに、学び・交流・実践を充実させる初の那覇支部例会が三十七名の参加で開催されました。

(有)沖縄ホテル宮里公宜氏コーディネートの中、各委員長から新体制の目的や活動方針、会員にとってのメリット、今後の支部活動への思いを共有しました。

経営委員長の(株)プレイバック・シアター研究所 河野信之氏からは「経営の資質向上を目的に、決算書の読み方やマーケティング、SNSやAIの活用方法など、実践的な学習会を開催し、会員の声を反映しながら、“今、本当に知りたいこと”を学べる場をつくり、会員の成長につなげていくことを目指す」と説明がありました。

経営委員長の(有)のれんずプロ 新井崇史氏からは「会員の声や地域課題をもとに行政へ政策提言を行い、より良い経営環境づくりに取り組み、行政や金融機関、地域との連携を深めながら、まち歩きやワークショップなどを通じて地域課題を共有し、具体的な提言や事業化につなげる活動を進めていく」とありました。

例会委員長の(株)アメニティ 慶田盛克磨氏からは「年六回の例会を企画・運営し、会員同士が本音で語り合い、互いの経験や失敗から学び合える場を提供します。報告者の体験やグループ討論を通して、自社の課題解決や経営力向上につなげるだけでなく、司会やファシリテーションなど運営に携わ

ることで、リーダーシップやコミュニケーション力を磨く機会にもなる」と話されました。

新設された会員交流委員長の(株)美スリート 生天目花蓮氏からは「新入会員が安心して活動に参加できる環境づくりを進めるとともに、歓迎交流会やバーベキュー大会、忘年会など、多彩な交流企画を実施し、人と人とのつながりを深めることで、学びやビジネスの機会を広げ、会員一人ひとりが気軽に参加できる支部づくりを目指す」とお話しがありました。

各委員長から「知識や人脈だけでなく、挑戦する経験そのものが経営者としての成長につながる」「同友会は失敗を恐れず実践できる場である」といった共通メッセージも語られ、新たな委員会制度のスタートにより、那覇支部は「学ぶ」「つな



会場全体

がる」「地域をつくる」「実践する」という四つの柱を中心に、会員一人ひとりが主体的に活動へ参加し、ともに学びともに成長することで、企業的发展と地域社会の発展にもつながることを確認しました。

(株)小梅と諭吉舎 朝比奈めぐみ



6月 中部支部例会

ブラック企業からホワイト企業へ

同友会の学びを通して変身！



玉城 栄氏

中部支部
例会が六月
二十四日、読
谷村地域振興
センターで開
催され、支
部会員含め

三十二名が参加しました。報告者は(有)リサイクルセンター沖繩の代表取締役である玉城栄氏。『ブラック企業からホワイト企業へ』同友会の学びを通して変身！』をテーマに、激動の経営体験を赤裸々に語りました。

かつて同社は労働組合の結成を機に、労使の激しい対立や残業代未払い問題に直面し、一時は会社解散の手順書まで用意するほど追い詰められていました。しかし、玉城氏は危機の中で同友会活動の役員を引き受け、他者へ相談できる環境や学びを通じ、組合員への姿勢を敵対から融和へと変化させました。

法令遵守の徹底をスタートラインと捉えて社内規程を整え、対立ではなく社員と共に危機を乗り越えるパートナーシップを構築しました。不平は数字で解決できますが、感情の不満は生んではならないという言葉に、参加者は経営者の姿勢の重要性を強く実感しました。

グループ討論では、「自社を振り返り、今後一番見直したいことは何ですか？」をテーマに深掘りしました。参加者からは、自社の就業規則や各種規定などの運営基盤を見つめ直し、法律に沿った会社運営を行う重要性が挙げられました。また、ゴミ収集員は社を支えるエッセンシャルワーカーであり、今後の地位向上を目指して、より地域密着型で発展を遂げるべきだという感想や願いも共有されました。社員を管理対象ではなく対等なパートナーとして信頼し、共に歩む存在へと自社のあり方を見直す、実践的な気づきに満ちた場となりました。

(株)琉球保安警備隊 仲宗根光寿



グループ討論



コザ信金ワークショップ

包括連携協定から、政策委員会が企画

コザ信金さんと同友会の経営者が、共に知恵を出し合って地域活性化を考えるワークショップが六月十日(那覇)と翌十一日(中部)の二日間連続で開催されました。那覇のワークショップには、那覇支部と浦添でこの支部より、十八社の経営者とコザ信金の六支店十二名が参加。中部のワークショップには、経営者十八社とコザ信金六支店から十二名が

参加。自分たちが住む、自社のある地域なので、身近なこととして議論も盛り上がりしました。この取り組みは、包括連携協定の活動の一環として、政策委員会が企画して実現しました。

コザ信金の前屋専務からは、「地域の元気がなくなるとコザ信金の将来もない。われわれが持っている情報、ネットワークを生かして皆さんと一緒に地域を盛り上げていき

い。」と挨拶されました。この取り組みは、琉球新報と沖繩タイムスにも大きく取り上げていただきました。

ワークショップは、七月十六日と八月二十日にも開催された後、九月十七日には、那覇、浦添、中部の全十二グループからの報告会が予定されています。

(株)アイセック・ジャパン 一瀬宗也



ワークショップの様子



6月「うりずん」部会例会

時を超え受け継がれる父の同友会経営哲学



山城 常秀氏(左)と座長の屋部 憲史朗氏

六月二十二日、沖縄産業支援センターにて、「時を超え、受け継がれる父の同友会経営哲学」二度と経営をやらないと決めた、社員が社長になることを決断した道のり」をテーマに、(株)レキサス社長の山城常秀氏が、自身の経営者としての歩みと経営理念について報告し、三十二名が参加しました。座長は、北部支部の屋部憲史朗氏(株)ハートボイルド 社長)が務めました。

山城氏は高校卒業後、複数の企業で経験を積み、動物病院では専務取締役として、人事制度構築や店舗戦略、CSR活動などを担当しました。しかし、不正行為を目的にしたり、精神的に追い詰められた経験から「社会や顧客を不幸にする経営なら二度と経営はしない」と決意します。その苦しい時期を支えてくれた現在の妻の言葉をきっかけに退職し、「社会に貢献する仕事が見たい」という思いからレキサスへ入社しました。

入社後は妻とともに中国へ留学し、現地でリモートワークを続けながら生活しました。コロナ禍では上海でロックダウンを経験し、生活は困窮した一方、中国社会がわずかな週間で教育や行政サービスをオンライン化していく姿を目の当たりにします。その後帰国すると、コロナで活気を失った沖縄の街並みを見て、「デジタルを活用できるかどうか地域や人々の暮らしを左右する」と痛感しました。この経験から、「デジタルの力で企業と人を強くし、経済的にも心も豊かにする」という使命を抱き、DX支援を事業の柱として取り組むようになります。

一方で、企業を変えるには経営者自身が成長しなければならないと考え、父が生前所属していた同友会へ入会しました。父親は同友会で理事や支部幹事を務め、同友会大学では、講師を担当。ところが、講義直前に倒れ、帰らぬ人となりました。その時、若年二十歳だった山城氏が、父に代わって講師を務めました。この時の多くの同友会会員に支えられた経験が今も忘れられないと話します。この出来事を通して、「同友会は会社ではなく経営者一人ひとりを支える組織」であることを実感し、「経営者になったら必ず同友会へ



全員集合

入る」と心に決めていました。

同友会では経営指針作成講座を受講し、自らの人生を振り返りながら経営理念を再構築しました。当初は沖縄全体を豊かにするという抽象的な理念でしたが、自身の原体験から導き出した使命を軸に据え、「企業の成長を通して社員や家族が豊かな暮らしを社会を

つくる」という理念へと深めていきました。また、理念やビジョンは経営者一人で作るものではなく、社員一人ひとりの人生や将来像を共有しながら共につくることで、より強い組織づくりにつながることを学びました。

現在はソフトウェア開発だけでなく、県内企業向けのDX支援、人材育成、組織開発、沖縄県とのDX人材育成事業などを展開しています。また、同友会では、経営委員会や経営指針作成講座のサポートにも携わり、理念を実践できる経営者を増やす活動にも力を注いでいます。「企業が強くならないと社員の給与も上がらず、家族との時間や子どもたちの未来も豊かにならない」と考え、企業の経営力向上と地域経済の発展を一体で支援しています。

最後に、AI活用についても触れ、一般的な生成AIには誤情報や情報漏えいのリスクがあることから、企業情報を安全に活用できる環境を整えた上で、同友会の経営理念や経営指針を学習させたAIを経営相談の壁打ち相手として活用する方法を紹介しました。そして、「何のために、誰のために経営するのか」という問いを常に持ち続け、自らの理念に基づいて経営を実践することの大切さを参加者へ伝え、報告を締めくくりました。

(事務局)

第62期経営指針作成講座 事前学習会から第1、2、3講を開催 「経営指針はなぜ必要か」



第2講師 宮城 光秀 氏



第3講師 真栄田 一郎 氏

同友会では「経営理念」「十年ビジョン」「経営方針」「経営計画」の四つを合わせて「経営指針」と呼びます。日々の経営で、判断や決断を迫られるなか、「社員の質問や取引先への対応の際の判断になる」「確固たる理念や方針があることで軸がぶれることがなくなった」となるための「経営指針」の作成がなぜ必要か。最初に普天間直樹経営副委員長（株）普天間商会（社長）が自身の体験も交えながら講座の概要について説明しました。続けて「中小企業における労使関係の見解と経営指針」をテーマに、（株）丸忠社長・中同

六月二日、沖縄産業支援センターにて、経営委員会主催の「なぜ経営指針が必要か（概要説明、労使見解、実践報告、グループワーク）」学習会が開催され、五十名が参加しました。

その後、第六十期修了生の（株）レキサス社長の山城常秀氏が、実践報告を行いました。経営者になる気がなかった山城氏が事業承継の覚悟を決め、二〇二六年に社長に就任。知識として経営は知っていても実践は違うことで危機感を感じたそうです。異業種の先輩方との「壁打ち」で指針書を完成させ、すぐに社員との共有をはかり、実践の第一歩を進めている現状を報告しました。

六月十三日の第一講「自社の現状を知る、労働環境」は講師に（同）グラッド代表社員の大城



第1講の様子



第3講の様子

章氏がつとめました。六月二十六日の第二講は「労使見解、経営理念策定」。講師は（有）大宮工機社長の宮城光秀氏（代表理事）が務めました。第三講「十年ビジョン、自社・外部環境ドメイン」は六月二十七日に開催され、講師は（有）沖縄電機社長の真栄田一郎氏が務めました。

指針書は、毎年見直しを重ね、激しく変化する情勢に負けない企業づくりの柱になっています。今後も第六講まで講義を重ね八月四日の報告会・発表会を目指し、各社での実践を目指します。（事務局）



浦添でだこ支部「ビジネス改善ラボ」 「二人では気づけない視点を得られる！」



星 真理氏

身の専門性に依存した事業モデルをどう拡大し、仕組みを作り、新たな事業へ挑戦するかの悩みを率直に語りました。

新たな構想として、沖縄の健康資源と観光を組み合わせた「ウェルネスツーリズム」構想を紹介し、可能性を感じているがスターとして、今の事業を深耕（既存顧客層を増やす）するのか、それとも拡張（ビジネス新展開）をするのか、また属人化を防ぎながら価値を広げるにはどうすればよいかを経営課題として提起しました。

グループ討論では、AIの活用による業務効率化や後継者人材育成、セミナー事業の展開、他業種との連携、アウトソーシングの活用、また「分子栄養学」というたうのではなく、惹かれやすいキャッチコピーの具体的な提案など、多様な視点から活発な意見交換が行われました。

参加者それぞれの経験や専門性を生かした提案が相次ぎ、「一人では気づけない視点を得られることがビジネス改善ラボの大きな価値」と改めて実感する機会となりました。経営課題を率直に共有し、仲間とともに解決策を考える同友会らしい学びの場となりました。（事務局）



共同求人委員会 高校・大学との就職懇談会



高校との懇談会

共同求人委員会では、高校・大学の先生方との懇談会を、六月三日、八日それぞれの日程で開催しました。進路指導の現状や企業が求める人材像など意見交換を行い、学校と企業が連携することの重要性を改めて確認する機会となりました。

参加者からは、「大学生の採用が慣れだったので詳しい話が聞けてよかった」「高卒採用について情報不足だったので話が聞けてよかった」といった企業側の学びや、「企業と直接意見交換ができ、課題を共有できた」「県内企業への理解をさらに深め、連携を強化したい」といった教育機関からの



大学との懇談会

声が寄せられました。学校と企業が互いの立場や課題を理解し合うことで、新たな気づきや信頼関係が生まれた有意義な懇談会となりました。

若者の成長を支えるためには、採用だけでなく、地域全体で人を育てる視点が欠かせません。共同求人委員会では、今後も先生方との信頼関係を大切にしながら、学校と企業が連携し、『未来に誇れる沖縄をつくる』というビジョンのもと学生・生徒一人ひとりが安心して未来を描ける環境づくりに取り組んでまいります。

（南大城水道工事 玉城真由美）



第2回 新人フォローアップ研修会 「ストレスコントロール」



大田 守尚 氏

六月二十二日、沖縄産業支援センターにて第2回新人フォローアップ研修会が開催され、各企業から九十一名の受講生（新入社員）が参加しました。今回は講師に(株)Ediffの太田守尚社長をお招きし、「ストレスコントロール」をテーマに講演いただきました。

講義は、「今よりも成長したい」と思っていますか?という太田氏からの問いかけから始まりました。本研修ではこうした問いかけが随所に複数回用意されており、提示されたテーマについて、受講生同士で話し合いながら進行していくのが特徴です。講師が解説する前にまず受講生へ問いを投げかけることで、自分なりに考えてから話を聞くという流れが自然と生まれていました。続いて、成長するには安心・安全なコンフォートゾーンを出て、適度なストレスがかかるラーニングゾーンへ踏み出す必要があると解説され、受講生たちは図解をもとに自分なりの解釈を交わし合い、それぞれが自らの課題を見つめる時間となりました。



研修の様子

して太田氏の実体験も語られました。人が一歩を踏み出すには、本人の意志だけでなく周囲の関わりが不可欠であり、太田氏自身も上司からの声掛けによって仕事の意味を見つめ直す機会を得て、自己肯定感が育まれたそうです。挑戦前の「周囲の支援」と、経験を共に振り返る「解釈の支援」をセットで行うことの大切さが伝えられました。

新入社員が心の持ち方を学ぶだけでなく、上司たちも若手への関わり方を改めて考える機会となった、充実した研修でした。(株)okicom 前多秀哉



第25期「社長・社員共育塾」説明会 四半世紀続く沖縄同友会の看板イベント

六月十六日、七月より開講する第二十五期社長・社員共育塾の説明会が、沖縄産業支援センターの大ホールにて行われ、三十六名が参加しました。

四半世紀続く沖縄同友会の看板イベントと言っても過言ではない「社塾」。今回は中同協副会長であり、自らも(株)丸忠の社長として、休む事なく社員と共に、社塾で学び続けてきた喜納朝勝社長より冒頭の報告がありました。

四十歳代だった喜納氏が債務超過を乗り越え、自社の社員を幸せに導き、成長し続ける理由のひとつに「社塾」を挙げています。強い説得力あるお話のあと、メインとなるパネルディスカッションに移り、会場はさらに集中力が増しました。

今回は小橋川牧氏(ハルモニアグラランデ)のコーディネートのもと、四名のパネリストは、経営者二名(今井陽介氏・いまいパシ(同)、大田守章氏・(株)赤マルソウ)とリーダー二名(マエダ電気工事(株)松田健作氏、(株)琉球補聴器 喜屋武奈緒子氏)で、社長・社員共育塾への本音の想いや、独自の目線から溢れてくる赤裸々なトークの数々に、会場は笑ったり緊張感に包まれたり、話が尽きない、あつという間の二時間となりました。

パネリストでリーダーのひとりの喜屋武氏は、特に印象に残った言葉として「経営を学ぶと人生が豊かになる。仕事を通じてどう生きるかを考えさせられた」を挙げ、「いつの間にかぬるま湯に浸かり、学びの

アンテナが錆びかけていた。今回登壇するのは、はじめ前向きな状態ではなかったが、自分の頭も整理でき、本当に参加して良かった」と語りました。彼女は、会の終了後、『中小企業における労使関係の見解』を買い求め、そんな自分に爽やかな驚きを感じているようで、これから始まる学び時間に、一緒にわくわくしています。

このように、社長・社員共育塾では、様々な業種の経営者、社員が集まり、講話も聴け、意見交換(グループ討論)もでき、新しい視点や仲間もできる、命薬の時間になります。通年受講、スポット受講も受付中!共に学びませんか?ぜひ、七月二十一日から開講する「社塾」に、ご参加ください!

(株)琉球補聴器 森山賢



パネリストの皆さん

おいしいから選ばれ 結果として身体にも環境にもやさしい！



会員ホット情報

今おすすめだよ！



松田 生江氏(左)と店長の 新垣 麗奈氏



「食べることは、生きること」。身体にも環境にもよいものを、自分も食べたいし、お客様にも届けたい——。

そんな想いを胸に、松田さんは宜野湾自動車学校向かいで「島ジェラート MAON VEGAN FACTORY」を営み、植物由来の食材を使用した、ヴィーガンジェラートや薬膳バーガー、薬膳ちまきの製造・販売を行っています。

商品の大きな特徴は、動物性食材や着色料、白砂糖を使用しない無添加へのこだわりです。看板商品のヴィーガンジェラートは、乳製品を使わずに満足感のある味わいを実現し、アレルギーを持つ方や健康志向の方をはじめ、多くの人に親しまれています。

店内には、宜野座いちごや月桃ぜんざい、シークワサーパイン、たんかん島みかんなど、沖縄県産素材を生かした色鮮やかなフレーバーが並び、見た目にも楽しめるジェラートです。「普通のジェラートと変わらない」「むしろこちらの方がおいしい」という声も多く、幅広い世代から支持を集めて

います。

また、薬膳スパイスマイスター監修の薬膳バーガーや薬膳ちまきは、身体をいたわる食材やスパイスを取り入れながら、おいしさにも妥協しない商品として人気です。さらに、泡盛のもろみ粕など地域資源を活用した商品づくりにも取り組み、健康だけでなく環境にも配慮した事業を展開しています。

「MAON」という店名は、松田さんのお父様が営んでいたフレンチレストランの名前に由来します。同じ「食」に携わる者として、お父様への尊敬の気持ちと、多くの常連客に親しまれた店名を受け継いでいきたいという思いから、この名前を付けました。

現在は店舗販売に加え、ソフトクリームミックスの卸販売や新たな販路開拓にも力を入れています。カフェや福祉施設への提案を進めるほか、将来的には店舗展開やフランチャイズ化も視野に入れ、沖縄発のブランドとして全国、さらには海外への進出も目指しています。

「健康だから選ばれる」のではなく、「おいしいから選ばれ、その結果として身体にも環境にもやさしい」。そんな新しい食文化を広げることが松田さんの目標です。一方で、自分たちが良いと信じる商品を、どのように多くの人へ届け、共感してもらうかという課題も感じているといいます。しかし、商品づくりだけでなく経営や販路開拓についても積極的に学び続ける松田さんの姿勢からは、より多くの人にこの想いが届く日もそう遠くないと感じました。

人にも、地域にも、地球にもやさしい食を届ける挑戦は、これからも続いていきます。

(事務局)

《会社概要》

MAON VEGAN FACTORY

代表 松田 生江氏

〈浦添でだこ支部〉

所在地／宜野湾市愛知2-1-6-101

T E L／090-2394-3530

事業内容／ジェラート専門店

VEGANジェラード製造や
卸販売

社員と作る経営理念と社是で 不易流行の100年企業を目指す

わが社の
オポージン

第335回

沖縄ホテルは、1941年に沖縄県内初の貴賓ホテルとして創業し、今年で創業85年を迎えます。創業者・宮里定三は、戦後の沖縄観光産業の礎を築いた一人として、沖縄県ホテル旅館生活衛生同業組合などの設立にも尽力し、「家庭のようなくつろぎと、おもてなしの心」を大切に経営を貫きました。

二代目・宮里一郎は、その想いを受け継ぎ、修学旅行をはじめとする団体旅行を積極的に誘致し、ホテルの発展に貢献しました。2014年には創業者の精神を「守礼商才」として経営理念に明文化し、「沖縄の良さを追求する」「より良いおもてなしを提供する」「人の喜びを我が喜びとする」「社会に貢献する」「万国津梁の気概を持つ」という五つの価値観を掲げました。

2017年に三代目社長へ就任した宮里公宜氏は、フロント、営業、総務、支配人など現場経験を積みながら事業を拡大してきました。しかし、2020年からの新型コロナウイルス感染拡大により、観光業界は大きな打撃を受け、沖縄ホテルも2021年から約15か月間の休館を余儀なくされました。

この未曾有の危機の中で掲げた目標は、「沖縄ホテルが世界から望まれる存在になること」でした。休館期間を未来への投資と位置付け、施設全体をリノベーション。団体旅行中心から個人旅行を重視したホテルへと転換し、2022年にリニューアルオープンしました。その結果、2026年にはリピーター率が20%を超えています。また、



中央に 宮里 公宜 氏

創業以来受け継がれてきた「旅館棟」「レンガ棟」「大道門」「瓦石垣」が2023年に国の登録有形文化財となり、戦後建築としては沖縄県初の登録ホテルとして、新たな価値を発信しています。

一方で、公宜社長が最も力を注いだのは「人づくり」です。世代交代や外国籍スタッフの増加を見据え、2018年に沖縄県中小企業家同友会へ入会。経営指針作成講座などで「労使見解」と経営理念の重要性を学び、社員と共に理念をつくる経営へと舵を切りました。

日頃から社員一人ひとりと面談を重ね、全社員参加の合宿では2034年の沖縄や沖縄ホテルの将来像を語り合い、行動計画や価値観を共有。その対話を積み重ねた結果、2024年には社員の声を反映した新たな

「経営理念」と「社是」を策定しました。理念は会社の価値観、社是は行動指針として位置付け、年齢や経験、国籍を問わず全員が同じ方向を向いて挑戦できる組織づくりを進めています。

創業85年を迎えた今も、変えてはならない創業者の精神を守りながら、時代の変化には柔軟に対応する「不易流行」の経営を実践しています。地域とのつながりを大切に、社員とともに理念を育みながら、沖縄の歴史・文化・おもてなしを未来へつなぐホテルとして、創業100年に向けた歩みを続けています。

経営理念(考え方や価値観)

1. 沖縄の良さを追求し、より良いおもてなしを提供する(科学性)
2. 人の役に立ち、社会に必要とされるホテルを目指す(社会性)
3. 仕事を通して、人間力を深め、成長意欲を持ち続ける(人間性)
4. 人との繋がりを心掛け、絆造りを大切にする(人間性)

社是(方針や主張)

「守礼商才」

礼節を重んじた先人達の「守礼」の精神を次世代に引き継ぎ、事業が正しい方向に向かい、利他の精神を持って事業を営み「才知ある商い活動」をしていく事

《会社概要》

(有)沖縄ホテル

代表取締役 宮里 公宜 氏

〈那覇支部〉

所在地／那覇市字大道35

TEL／098-884-3191

事業内容／宿泊、宴会、レストラン

中東情勢緊迫化に関する政策要望・提言

2026 年 7 月 6 日 （一社）沖縄県中小企業家同友会

2026 年 2 月に発生したイスラエルおよびアメリカ合衆国による国連憲章・国際法違反のイランへの軍事攻撃を契機として、ホルムズ海峡の封鎖など中東情勢は緊迫の度合いを増しました。こうした状況が日々の企業活動にどのような影響を与えているか把握するため、「中東情勢影響調査」アンケートを実施し、結果について見解を発表しました。そしてアンケート結果をふまえ、私たちは、中東情勢緊迫化に関して、以下の政策要望・提言を沖縄県に提出いたしました。

（１）流通過程での買い占めや売り惜しみに対して厳正な対処を

アンケート調査で、塗装シンナーや養生材、塩ビ管、エンジンオイルの不足が多数訴えられています。現時点では、国内在庫が枯渇したことによるものではなく、流通過程での買い占めや売り惜しみが主要因と考えられるので、公正取引委員会と連携し厳正な対処を求めます。

（２）緊急支援融資など資金確保の手立てを

一部の素材、部材等が入手困難となり、中小企業の操業継続の危機が現実味を帯びています。企業存続にあたっては資金確保が前提条件ですが、金融機関の貸出態度はコロナ禍を経て厳格化しており、とりわけゼロゼロ融資などの既往債務を抱える企業は追加支援が得られない状況です。金融庁からはすでに、官民金融機関に向け、「中東情勢を踏まえた金融上の対応について」の要請がなされていますが、確実に履行されるよう政府系金融機関および民間金融機関へ働きかけてください。

①情勢変化に機動的に対応し、各金融機関における中小企業の既往債務の凍結や返済条件緩和が速やかに実施されるよう万全を期すること。なお、この場合も、返済履歴の瑕疵とはしないこと。

②急激な資金繰り悪化に備え、当座貸越枠の拡大を各金融機関へ要請すること。

③中東情勢に関し、現在設けられている県の制度融資について、保証料の減免、利子補給等、中小企業の実情に応じた支援を拡充すること。

（３）円滑な価格転嫁を制度的に保証する

メーカー等の突然の値上が多く、中小企業は急激なコスト上昇に直面し始めており、都度の価格交渉では追いつかない状況になりつつあります。埼玉県が公表している価格交渉支援ツールは、企業間で取引される様々な原材料やサービス価格について自由に選択し、価格の推移と増減を明確に把握できるものです。たとえば、こうした客観情報に基づく価格変化に対しては、交渉なしに転嫁を義務づけるなど、中小企業が突如のキャッシュアウトに見舞われない価格転嫁体制を早急に整備することを求めます。

（４）価格上昇への対応支援および取引リスクへの対応

入札契約後の資材価格上昇により対応が厳しい案件について、ガイドラインの作成および支援策について検討を求めます。建設業などは中間で価格の確認・改定ができる仕組みがあるように、全業種にわたりその仕組みが適用できるよう求めます。

（５）県民の生活を守るための緊急的な支援を

中東情勢の悪影響が全業種に広がり、地域経済がより悪化する状況が見込まれます。消費税の減免や社会保険料の減免などで、個人の可処分所得が増える施策が早急に具体化されることを求めます。

（６）安定した経済が営まれる国づくりを

平和の中でしか中小企業は繁栄できません。武力ではなく、対話による問題解決が図られるよう、日本が積極的にその役割を担うことを求めます。

以上

コースNo. 120

NEW

人材を戦略的に育成するために 中小企業 人材育成 の重要性 における【沖縄教室】

中小企業大学校

人吉校

企業経営・経営戦略

研修のねらい

中小企業にとって人材は貴重な財産であり、いかに育成するかは、事業を発展させていくうえで重要な要素です。しかしながら、社内研修制度や育成プログラムの作成・実施といった組織的な育成を実施できている中小企業は限られています。働き方の多様化や人材を取り巻く環境が大きく変化している中では、人材育成を戦略的な視点で取り組むことが非常に重要です。

この研修では、中小企業が限られた人財を"戦力"に育てるための視点や手法を理解し、強い組織をつくり上げるための人材育成の重要性について学んでいきます。

研修のポイント

- ✓ 中小企業における人材育成の重要性と考え方がわかります。
- ✓ 事業計画から人材育成までの繋がりがイメージできます。

研修期間

2026 年 【1日間/7時間】

10/1

対象者

経営者 / 経営幹部 / 後継者

- ・ 自社の人材育成を考えたい方
- ・ 場当たり的ではない、戦略的な人材育成を検討したい方

定員 20 名

受講料 16,000 円 (税込)

会場

沖縄産業支援センター

沖縄県那覇市字小緑1831番地1



月 日	時間	科目	内容
10/1	9:45-10:00	オリエンテーション	
	10:00-12:00	人材育成の基本	企業を取り巻く経営環境の変化を認識し、人材育成の基本を理解します。 ・ 人材を取り巻く環境変化と人材育成の必要性 ・ 地域特性にみる人材育成
	13:00-16:00	人材育成に求められる視点・能力	これからの時代に求められる人材育成の考え方を学びます。 ・ 人が育つ企業の共通点 ・ 人を育て、やる気を引き出す職場風土の形成 ・ リーダーシップとマネジメントスキル ・ 人材育成を「戦略」として考える（長期的な視点）
	16:00-18:00	自社における人材育成を考える（演習）	自社における人材育成の課題を認識したうえで、今後の方針を検討します。 ・ 現状認識と課題の認識 ・ 今後の方針
	18:00-18:10	修了証書交付	

※カリキュラムは都合により変更する場合があります。予めご了承ください。

講師紹介（敬称略）



株式会社ヒューマンリソース・デベロップメント
代表取締役

清永 誠（きよなが まこと）

1985年、三井ハイテック（北九州市）に入社し、ICリッドフレームの製造、品質管理などを行う。その後、人材派遣の営業などを経て、戸畑ターレット工作所に入社し、営業実務、生産管理などを経験。1995年、多角経営に失敗し、倒産の危機にあった同社を再建。中長期経営計画立案と実践（人づくり・やる気づくり・生産管理と品質管理強化・技術開発等）、自動車産業への参入を果たし、オーナー家へ事業承継。2015年6月、『至誠塾』を立ち上げ、地元の中小企業経営者を対象に高い志を持つ、「人」中心の経営を指導。同年10月より現職。早稲田大学大学院情報生産システム研究科修士（工学）。

Be a Great Small.
中小機構

独立行政法人 中小企業基盤整備機構
中小企業大学校 人吉校

〒868-0021 熊本県人吉市鬼木町梢山1769-1
TEL: 0966-23-6800 (平日 9:00 ~ 17:30)
FAX: 0966-22-1456

お気軽に
お問い合わせください。

人吉校

検索

